

村上支部協会便り

新潟県看護協会

第28号 平成30年2月

支部長ご挨拶

平成29年度から支部長としております柴田百合子と申します。副支部長、役員の皆様のお力を借りながら任期を務めてまいりたいと思っております。皆様におかれましては、日ごろから地区協会事業、運営にご理解ご協力を受け賜り、厚くお礼申し上げます。

平成29年度は、昨年度に引き続き、地域との交流を図り看護職員の確保を目的に新潟看護医療専門学校村上学園祭への出店を行いました。きれいな学校の教室を借り、看護学生や保護者の方、地域の方との交流を図り、役員自身もアロママッサージに癒され、楽しい時間を過ごすことができました。また、12月3日に村上市在宅医療推進センター主催の石飛幸三氏による講演会「平穏死を受け入れるレッスン」に共催という形で参加し、会員の皆様に多数参加していただきました。寸劇があり、理解しやすく自分自身の問題として考えることができました。

平成30年は診療報酬・介護報酬の同時改訂となり、各施設では改定後の対応を検討されていることと思っております。病院にとってはマイナス改定となり、いっそう厳しい経営が迫られますが、国の財源が乏しい中、2025年問題を見据え、医療や介護の質が問われる改定になると言われています。また、地域包括ケアシステムの構築の推進がますます求められ、医療、介護との連携を、施設包括ケアシステムを強化していくことが重要となります。機会は少ないですが、支部活動の場が会員の皆様の学びとなり交流の場となれば幸いです。役員一同、会員の皆様にとっても有益な研修会や活動を企画していきたいと考えております。お忙しいとは思いますが、多数の参加をお待ちしております。



村上支部
支部長 柴田百合子

～平穏死を受け入れるレッスン～

平成29年度在宅医療普及講演会（共催参加）
*村上地域在宅医療推進センター、他による劇「知って下さい。本当に畳の上で看取られるためには」
*石飛幸三氏による講演「平穏死を受け入れるレッスン」
～なぜ自分にはして欲しくないのに、親、兄弟、夫、妻に延命治療をするのですか？～



劇では・・・
余命2か月と告知をされた主人公が、「最期は自分の家の畳の上で死にたい」という想いを前に、家族それぞれの立場で、現実的で深刻な思いを表していました。在宅での看取りを実現するために、交差する家族間の思いを一つにする難しさ、他者や医療福祉サービスの協力を得ていくために必要な知識などをリアルに再現していました。

五飛幸三氏による講演では・・・

「平穏死」とは・・・

我々は、人生最期の迎え方について、今までに全く考えずにはいけなくなりました。多くの人は最終章が来たら病院で管だらけになって死ぬのは嫌だと言います。しかし親や連れ合いの最後に直面すると、救急車を呼んで病院に送ります。点滴や経管栄養で頑張らせるのです。我々は自然の摂理を無視して、医療に過大な期待をしているのではないのでしょうか。人生最終章において迷う人間の心を支えるという、もう一つの大切な医療の役割を我々は考えなくてはならないのです。自然の摂理を受容してそれに従えば穏やかな最終章を迎えられるこの不思議な自然の仕組みを、大いなる自然の恩恵を「平穏死」という言い言葉に託して、改めて再認識する時に来ているのではないのでしょうか・・・と、優しい口調で問いかけ、聞く人それぞれに大切な課題を下さいました。

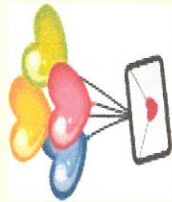


東京都世田谷区
特別養護老人ホーム芦花ホーム
常勤医 石飛幸三

H30年度村上支部通常集会

日時：H30年6月16日（土）
場所：村上総合病院講堂
支部総会後講演会

「心と体のセルフメンテナンス
～輝く心と体と思考の作り方～」
講師：一般社団法人セルフケアドヴァンス協会
代表理事 水科江利子



H29年度村上支部通常集会・研修

平成29年7月1日（土）
村上市ふれあいセンターにて・・・

中村小夜子さんを講師に迎え笑いヨガ「笑う門には福来ると言う意味もあります。2月4日は立春、暦の上では春がやってきました。そんな季節の変わり目に、邪気を払って無病息災を願い豆まきをしてインフルエンザも吹き飛ばしましょう！
皆様、お体ご自愛下さい。
事務局：新潟県厚生連村上総合病院



編集後記

年があけ、あつという間に2月になりました。2月といえば、節分。節分は季節を分けると言う意味もあります。2月4日は立春、暦の上では春がやってきました。そんな季節の変わり目に、邪気を払って無病息災を願い豆まきをしてインフルエンザも吹き飛ばしましょう！
皆様、お体ご自愛下さい。
事務局：新潟県厚生連村上総合病院

